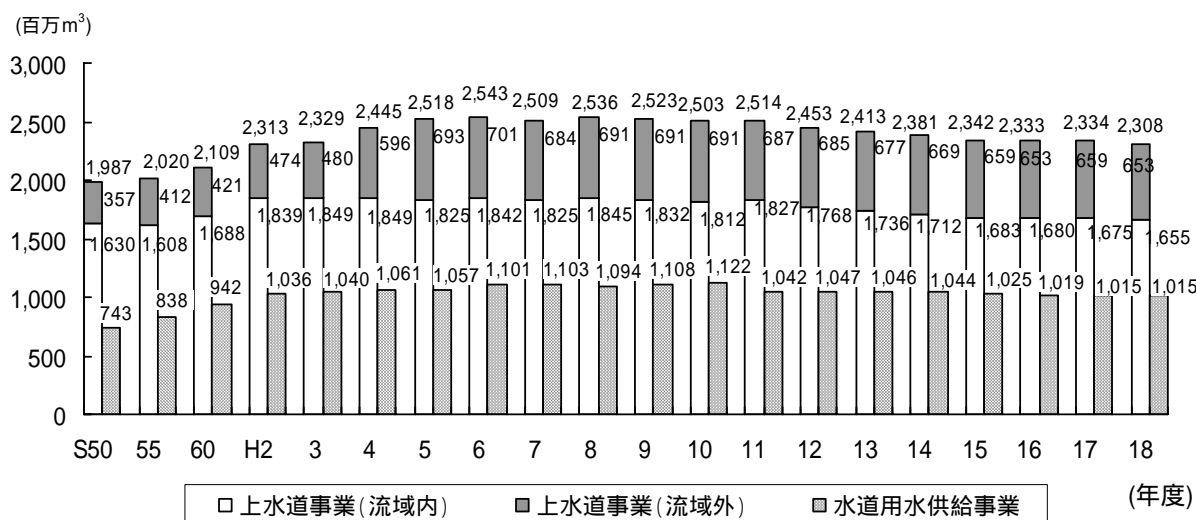


(2) 水需要

水道水の年間給水量は平成6年以降僅かずつ減少傾向にあり、平成18年度は約23億 m^3 であった。その内訳は、流域内の上水道事業者による供給量が約17億 m^3 、流域外の上水道事業者による給水量が約7億 m^3 である。

流域内上水道給水量約17億 m^3 の府県別内訳を見ると、大阪府の占める割合は約56.5%であり、京都府が約18.8%、滋賀県が約10.8%、兵庫県が約8.0%、奈良県が約4.5%、三重県が約1.4%となっている。

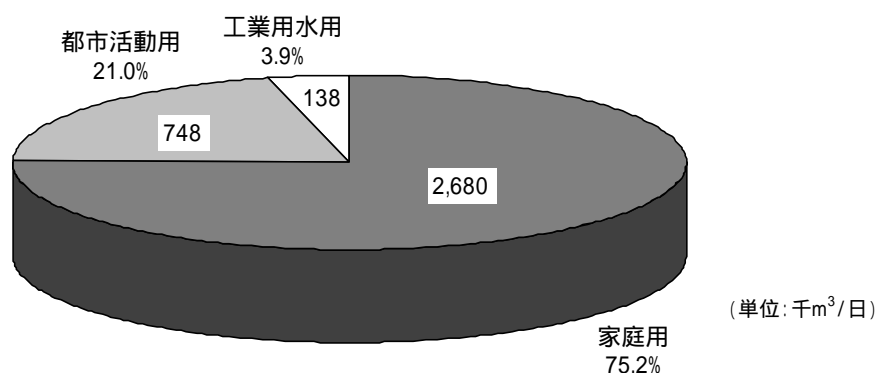
水道用水供給事業の年間給水量は、昭和50年度の7億 m^3 から平成2年度には10億 m^3 に急増し、その後は微増となったが、ここ数年は減少している。



【図2-4 年間給水量の推移】

日本水道協会「水道統計 施設・業務編」より作成
詳細は資料2-9を参照

平成18年度の需要区域内の用途別有収水量の内訳をみると、家庭用水が約75%、都市活動用水が約21%、工業用水が約4%となっている。



【図2-5 需給区域内上水道事業の用途別有収水量(平成18年度)】

日本水道協会「水道統計 施設・業務編」より作成